公益社団法人　隊友会　https://www.taiyukai.or.jp/

6月18日、4月6日の宮古島沖陸自ヘリコプター事故に係る葬送式が健軍駐屯地で行われます。
お亡くなりになった10名の方々のご冥福をお祈りします。

隊友

令和5年6月15日
第830号　毎月1回・15日発行

発行所　公益社団法人 隊友会本部
〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5番1号
電　話　03(5362)4871・FAX4876
購読料　1カ月120円（税込み送料別）、1カ年1,400円（税込み送料共）
kouhou@taiyukai.or.jp

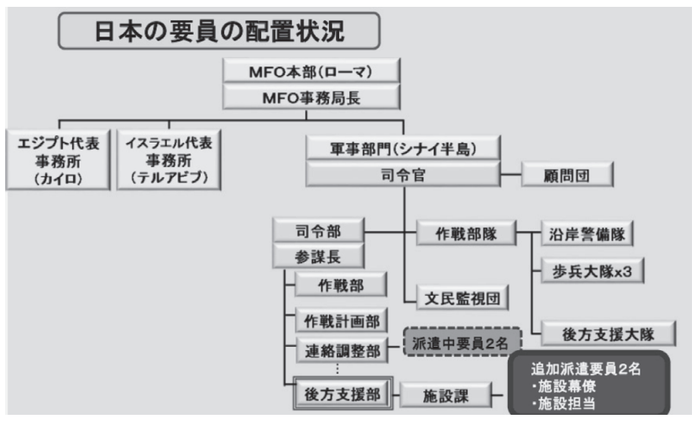
「防衛省からのお知らせ」
－防衛省を退職した皆様へ－
4面に掲載

MFO　第5次 司令部要員を激励

中央右から塩2佐、永井3佐、山田3佐、宮下2曹

5月23日、防衛省（市ケ谷）において、隊友会本部藤井事務局長及び山本公益課長は、イスラエル、エジプト両軍の停戦維持を監視する「多国籍軍・監視団（MFO）」の第5次司令部要員として1年間派遣される塩崇2等陸佐、永井遼介3等陸佐（以上連絡調整部）、山田将平兵3等陸佐及び宮下孝幸2等陸曹（以上後方支援部施設課）を激励した。

◇解説　MFOは1982年からエジプト・アラブ共和国のシナイ半島に展開し、現在は米国や英国など13カ国が参加している。日本政府は88年度からMFOに財政支援を行なっており、2019年からは司令部要員2名を派遣しているが、今回MFO側の要請により、後方支援部施設課に2名の追加派遣が決定した（5月12日閣議決定）。4名は、出国後、シナイ半島のシャルム・エル・シェイクにあるMFO司令部の連絡調整部（派遣中の2名と合流）と後方支援部施設課で活動する。



日本の要員の配置状況（外務省HP）

シナイ半島にあるシャルム・エル・シェイク（Google Map）

隊友会が見送り・激励

派遣海賊対処行動
航空隊 水上部隊
交代部隊が出国

派遣海賊対処行動航空隊及び派遣海賊対処行動水上部隊は、2009年以来、毎日ジブチを拠点にアデン湾の警戒監視や中東地域の日本関係船舶の安全確保に向けた情報収集等にあたっている。

統幕発表によれば、5月1日現在、航空隊は、累計で飛行回数約3千百回、飛行時間は約2万2千3百時間に及ぶ。この間の艦艇等への情報提供回数は、約1万6千回である。また、水上部隊は、累計で直接護衛約4千隻、ゾーンディフェンスでの確認商船数約3万1千隻となっている。

4月25日、海自那覇航空基地から第5航空群（群司令・高田哲哉海将補）を基幹とする第52次派遣海賊対処行動航空隊（隊長・出口晶一2等海佐）が出国した。

出国に当たっては、派遣される約60名の隊員の任務完遂と安全への祈りを込め、第5航空群の隊員と派遣隊員のご家族、協力団体約80名（沖縄県隊友会10名を含む）が盛大に見送った。

出国に先立つ19日、沖縄県隊友会（会長・平田喜彦）は、第5航空群を訪問し、平田会長から激励品を贈呈した。

（事務局長・清敏洋）

出口航空隊長に激励品を手交する平田沖縄県隊友会会長

また、6月3日、海自横須賀基地船越地区において、護衛艦「いかづち」艦長・田中宏明2等海佐を指揮官とする第45次派遣海賊対処行動水上部隊（中東地域における情報収集活動を兼務）の出港行事が行われた。

自衛艦隊司令官齋藤聡海将は、スーダンでの邦人輸送活動においてP－3C哨戒機が予備機として準備万端待機していたことや海賊対処行動中の護衛艦がスーダン近傍で活動のため沖合において不測の事態に備えていたことを紹介し、「彼らは名もなきヒーローであり、誇りに思う。諸君も同様に国民を守り、豊かな海を守るため献身的な活動をするよう期待する。特に、若い隊員は目立たない業務に従事するが、それぞれの持場において任務達成に邁進して欲しい」と、壮行の辞を送った。

出港行事に先立つ5月24日、神奈川県隊友会横須賀支部（支部長・濱田暢喜）は、「いかづち」を訪問し、神奈川県隊友会（会長・松岡貞義）を代表し、田中艦長にスポーツドリンクなどの激励品を贈呈した。

田中艦長は、「炎天下厳しい環境において活動する隊員にとって、このような激励品は一番の励みになります」と感謝を述べた。「いかづち」のご安航と任務の達成、隊員全員の無事の帰国を心から祈念する。

（横須賀支部長・濱田暢喜）

激励品(一部)を囲んで士官室にて

沖縄県隊友会
破壊措置の準備激励

山﨑群司令に激励品を手交する平田会長

5月18日、沖縄県隊友会（会長・平田喜彦）は、航空自衛隊南西高射群本部（那覇）を訪れ、4月22日に発出された「弾道ミサイル等に対する破壊措置の準備に関する自衛隊一般命令」に基づき南西諸島（宮古島、石垣島、与那国島）に展開されている各高射隊に対する慰問と激励をするとともに、南西高射群司令山﨑浩二1等空佐へ激励品を贈呈した。

（事務局長・清敏洋）

隊友会 寄付者芳名

東京都江戸川区在住
池田尚和　様　百万円

滋賀県特別会員
奥村直広　様　5千円

航空自衛隊
北村靖二　様　1万円
（順不同、五月三十日 現在）

御礼

東京都江戸川区在住の池田尚和様から多額のご寄付をいただきました。

今回いただきました寄付金は隊友会事業の推進のために使わせていただきます。

ありがとうございます。

発煙筒
「家族支援」

昨年末に策定された国家防衛戦略では人的基盤の強化策の一つとして「関係団体等との連携を含めた家族支援の拡充」をあげています。既に隊友会等の関係団体と陸海空3自衛隊の間でそれぞれ中央協定が、さらにこれらを受けて地域レベルの協定が次々と締結されており、「家族支援」はかなり浸透していると言えます。ではそれを拡充するとは具体的に誰が何をすべきなのでしょうか？

そもそも自衛隊における家族支援とは、各種任務等で派遣される隊員たちが後顧の憂いなくその任務に専念できるよう、隊員家族の安否確認をはじめ必要な支援を行うことであり、「自助」（自分の身は自分で守る）、「共助」（地域や仲間で助け合う）、そして「公助」（部隊等からの支援）の3つの柱からなります。一義的には隊員とその家族の「自助」努力によりますが、自らも被災等した場合などは「公助」として部隊等による支援が行われます。しかし「公助」も例えば公共性などの観点、すなわち皆が被災している時に隊員の家族だけを優先して助けてよいのかといった制約があるため、仲間同士の互助、すなわち「共助」が必要となります。

「自助」はともかく「公助」に関しては、現在、部隊等に専門部署等が設置され、かなり充実が図られています。一例をあげれば、災害派遣時の「緊急登庁支援」等はルーティン化されています。他方、「共助」は活動根拠（協定）こそできましたが、具体的活動という面では未だ低調と言わざるを得ません。

したがって、現在不十分であるこの「共助」を担う我々が、「自助」と「公助」の欠落部分を埋めていくことが拡充です。関係団体相互の役割分担を含む連携態勢の確立、自衛隊との専用連絡窓口の設置、部隊等からの「共助」ニーズの明確化等々、課題は山積しており、現在、防衛省と関係団体の間で拡充すべき具体的施策等に関して意見交換を重ねています。OB・OGとして何か現役の役に立ちたいという気持ちは皆さんの間で共有されていることでしょう。そうした皆様の気持ちを家族支援の具体的な行動へと転換することを目指し鋭意検討を進めて参りますのでご協力をよろしくお願いします。

（常務執行役　野澤真（のざわしん））

引越の合見積は隊友会へ!!

隊友会は、全国ネットの大手引越会社である
日本通運、サカイ引越センター、アート引越センター、ハート引越センター、三八五引越センター
から3社以上の見積を

一括して手配します!!

終始を通じて確実フォロー

申込
①**オンラインで申込み　オススメ！**
- 「2次元コード」をスマホで読み取り
- 「隊友会　引越」とパソコン、スマホで検索
- 防衛省共済組合HPのバナーをクリック

② **FAXで申込み**（FAX申込書使用）
- 隊友会本部事務局（03-5362-4876）に送信
- 引越相談会などで隊友会会員に手渡し

見積　各社から下見の調整　⇒　下見　⇒　見積書の受領
引越　貴方が会社を決定　⇒　引越
精算　赴任先の会計隊に、領収書と3社の見積書を提出

隊友会 引越　検索

公益社団法人 隊友会
引越は隊友会の3社合見積で！！
（防衛省共済組合HP）

引越しは日通
株式会社まごころこめておつきあい サカイ引越センター
0123 アート引越センター
Heart International Group ハート引越センター
MIYAGO 三八五引越センター

お問い合せ
公益社団法人 隊友会
事務局（事業課）
〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5番1号
電話　050-5896-4312　080-6842-8746